

長江正成

県政レポート



新春 2024 号
愛知県 12月定例議会特集
(編集・発行) 県議会議員
長江正成事務所
〒489-0881 瀬戸市熊野町83番地の8(尾張瀬戸税務署南隣)
TEL(0561)85-5195 FAX(0561)82-1375
E-mail:masanari@nagae.info
URL:https://www.nagae.info

「あいちウィーク」と「県民の日」を契機に 愛知の魅力を発信します！

令和5年12月定例議会が、12月1日から12月20日までの会期で開かれ、総額603億余円の一般会計補正予算案を始め、条例の一部改正、人事案件などの51議案を集中的に審議し、可決成立させました。

今回の開会日に提出された補正予算には、大規模災害への対応のための愛知県基幹的広域防災拠点事業計画地内における埋蔵文化財発掘調査の実施費用が含まれています。これは、試掘調査により、遺構や遺物が発見されたことに伴い、発掘調査や記録を実施するものです。また、技能五輪国際大会の本県招致に向け、運営組織であるWSI事務局による競技会場等の現地調査に対応するとともに、PRリーフレットを作成する費用も含まれています。さらに、最終日には、国によるデフレ完全脱却のための総合経済対策に呼応し、

国の「重点支援地方交付金(物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金)」を活用した事業や、土地改良や道路・河川整備の公共事業を行うための費用を計上した、追加補正予算が上程されました。

予算以外の議案の内容では、人事委員会からの職員の給与等に関する報告及び勧告を受けた条例改正を行うものや、2024年3月のジブリパーク「魔女の谷」の開園に合わせて公園内に整備を進めている「魔女の谷のみえる展望台」の使用料を定める条例改正です。

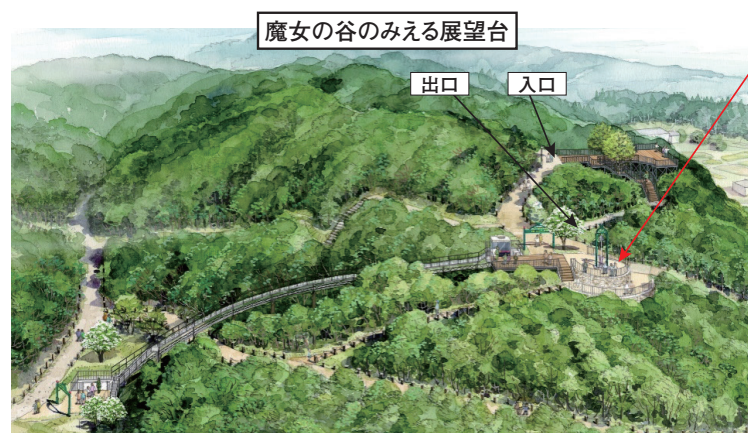
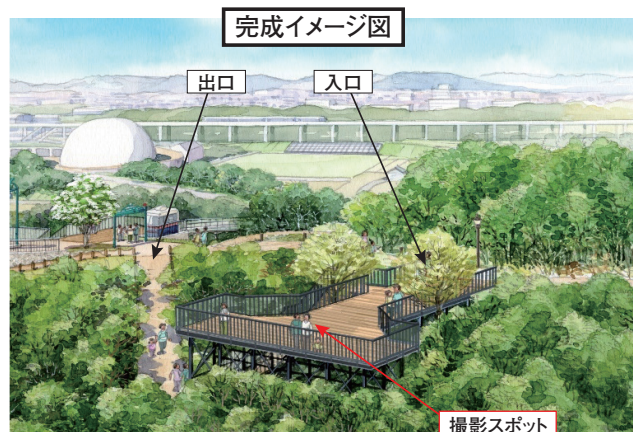
また、意見書については、**あいち民主県議団**から提案した「教員の働き方改革の推進及び教員不足の解消について」と「PFAS(有機フッ素化合物)対策の推進について」を始め5件を採択しました。

ジブリパークの更なる魅力向上に向けて！

愛・地球博記念公園においては、ジブリパークのチケット(予約制)を持っていないくても、来園者が「魔女の谷」を上から眺めながら、併せて記念撮影もできるよう、眺望施設を整備しています。

- 【使用料の額】
- 対象：魔女の谷のみえる展望台
 - ・入 場：30分間隔で時間を指定(退場は指定なし)
 - ・平 日：無料
 - ・土日休日等：有料(中学生以上1人1回につき150円、小学生以下無料)

【供用開始時期】 2024年3月16日(土)～



© GISPRI

あいち民主県議団の活動を紹介します！

● 団研修会：議員の資質向上を目指し、定期的に研修を実施しています。

名古屋掖済会病院 北川喜己院長をお招きして『愛知県の防災・災害における患者搬送の現状と将来』について講演をいただきました。

【講演要旨】

- 1 ダイヤモンド・プリンセス号対応の教訓
その後の新型コロナ対応体制へ
・搬送調整機構とクラスター現場対応が必須
都道府県本部での入院搬送調整
DMATの病院・高齢者施設等支援
・受入病院確保の困難
受入病床確保の必要性、重点医療機関の指定

- ・軽症大量患者受入施設の必要性
宿泊療養
- ・PCR要員確保の必要性
PCRセンターの設置と地元医師会の協力



2 南海トラフ大地震での医療体制への対応

★初動では

- ・機能維持した病院は、溢れる重症患者を診る
- ・近隣ならびに広域の医療搬送を実施する
- ・籠城した病院は、病院避難とならないよう入院患者を診る(平時の備え)

★数日後…には

- ・物資をはじめ早期の排水・道路啓開等で、籠城した拠点病院を支援し機能回復を図りつつ患者を病院に運ぶ

3 医療搬送の重要性

医療搬送：医療の管理下における搬送

- ・医療の継続が必要な傷病者の搬送は、医療搬送が必要
- ・重症患者の搬送は被災地から被災地外病院まで間断無き医療の継続が必須
※適切な医療サポートなしに搬送した場合には、多数の防ぎえた死亡を発生させてしまう

愛知県美術館 × 愛知県陶磁美術館 初の共同企画「コレクションズ・ラリー」

開催：2024年1月16日(火)から4月14日(日)

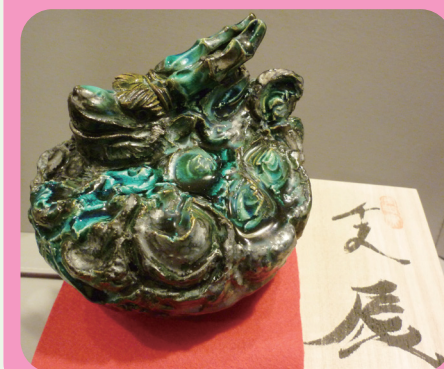
場所：愛知県美術館(愛知芸術文化センター10階)



愛知県陶磁美術館の愛称は「愛陶(あいとう)」
所蔵は8,310件(2022年3月末)。
同館は2023年6月から改修工事のため休館中
(2025年4月に再開予定、作陶体験施設は
2024年11月に先行再開予定)。

今年もよろしく
お願い申し上げます

令和6年



あいち民主県議団 代表質問から

(12月5日 本会議)

政策調査会長

桜井 秀樹

(豊田市2期)

質問1 自動運転について、これまでの実証実験で培ったノウハウをどのように活用していくのか？

知事 これまで、全国初となる5Gを活用した遠隔型自動運転を実施するなど、自動運転技術の向上に焦点を当てた実験をはじめ、公共交通との連携や車室空間のあり方といった自動運転車両の多様な活用方法の検討などについても取り組んできた。今後は、2024年10月のSTATION A i開業時には、STATION A iと名古屋駅とを自動運転で結び、往來の激しい都心での全国初となる定期運行の実現を目指す。また、これまでの取組で得られたノウハウをもとに、県内市町村等が独自に行う実証実験の計画策定や実施にあたり積極的に支援を行い、県内における自動運転の普及拡大にも努めていく。

質問2 カーボンニュートラルの実現に向けた中小企業支援について、どのように取り組んでいけるのか？

知事 今年度は、脱炭素経営に取り組み意欲が高い中小企業にアドバイザーを派遣し、CO₂排出量の算定や削減目標の設定等の支援を開始したほか、普段から中小企業に寄り添う金融機関や名古屋商工会議所と連携して、環境省の新規事業である「地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業」の採択を受け、よりきめ細かい支援に取り組んでいる。さらに11月には、中小企業の支援体制を更に強化するため、本県が中心となつて、金融機関や経済団体、国、市町など56機関による「あいち脱炭素経営支援プラットフォーム」を設立し、参画機関がしっかりと連携、協働しながら、地域ぐるみで中小企業の脱炭素経営に向けた取組を支援し、「カーボンニュートラルあいち」の実現を目指していく。

質問3 少子化の対応について、婚活イベントなど結婚支援の取組について。

知事 少子化の大きな要因の一つである未婚化・晩婚化への対策として、結婚を希望する方に出会いの機会を提供するため、10月7日に愛・地球博記念公園において定員400人の大規模婚活イベントを開催した。若者の関心は高く、出会いの機会の提供と結婚を希望する若者を社会全体で応援する機運の醸成という目的を果たすことができたと感じている。県としてイベントに参加した方へ1月に行う追跡アンケート調査の結果などを踏まえ、今後も大規模イベントを含めた本県の結婚支援の取組を強化し、結婚を希望する方に出会いの機会や場の提供ができるよう、しっかりと取り組んでいく。

質問4 教員の多忙解消に向け、施策と時間軸が一体となった愛知県版教員の多忙化解消プラン・ロードマップを作成し取り組むべきでは？

教育長 今年度から、市町村の小中学校10校をモデル校に指定して、

授業時間数の見直しや会議資料等のペーパーレス化などの業務改善を実践している。このモデル校における業務改善の成果をとりまとめ、県内全域に周知するとともに、取組成果の報告会をオンラインで実施し、県内すべての学校に参加を促している。また、国においては、2024年度からの3年間を、教員の働き方改革、処遇の改善、指導・運営体制の充実を一体的に進めていく集中改革期間としている。こうした国の動きや、モデル校における業務改善の成果などを取り入れ、この3年間で多忙化解消の道筋をつけるロードマップを、来年度の夏ごろまでに作成していく。



▲ 本会議の録画視聴はこちらから

愛知県議会ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/gikai/>

あいち民主県議団 一般質問から

全国初の在住地・在勤地消防団員制度を提案

福田 よしお 議員

(日進市及び愛知郡 3期)

消防団員の福利厚生事業の充実と処遇改善として報酬、手当、交通費等を国基準を参考に市町村に指導助言を要請するとともに、全国初の在住地と在勤地で消防団員として活動できる制度の創設を提案し、県は在住・在勤の重複消防団員制度の有用性を市町村防災担当課長会議などを通じて紹介し、県内

消防団の充実強化対策に努めると答弁を得た。またWRCラリージャパン、ラリー三河湾とともに愛知県国際展示場で開催される「学生フォーミュラ日本大会」を活用した地域振興やスペイン・ビルバオやサンセバスチャンをヒントに県の魅力的な地域づくりについて質し、前向きな答弁を得た。

介護分野等における外国人就職支援について

細井 真司 議員

(刈谷市 1期)

日本、そして愛知県が、外国人から介護分野の就業先として選ばれなくなる危機感から、昨年まで駐在した、外国人労働者獲得での最大のライバル・台湾における自らの経験や、国内他自治体の受入強化施策などを紹介した上で、本県の外国人就労支援の取り組みについて尋ねた。

これに対して大村知事からは、学習支援経費への助成といった外国人材を受け入れる施設等への支援充実や、安心して働ける適正な労働環境や生活環境の整備を行うことで、介護分野等における外国人材の確保に取り組む、誰もが活躍できる社会の実現を目指す、との答弁を得た。

南米架け橋人材との連携強化と多文化共生

小木曾 史人 議員

(あま市及び海部郡 2期)

8月下旬に実施した南米調査結果を踏まえ、将来的な南米との関係強化を見据えた事業展開について質問。愛知県から南米に移住した方の子孫を対象にした留学制度について、資格要件の緩和を求め、県当局からは緩和を検討する旨の答弁を得た。

外国人県民への日本語教育支援

在宅介護サービス事業者等の駐車場問題対策

むらしま 嘉将 議員

(中川区 1期)

今後、超高齢化社会を迎えることが確実視される中、介護の訪問サービスを利用する方が年々増加してきています。しかし、介護事業者が利用者宅を訪れた時に車を停める場所がない、或いは駐車禁止場所に路上駐車する為の許可申請が非常に煩雑であるという問題が発生しています。県営住宅におい

について、担い手不足と習熟度別のきめ細かな教育の観点から、「人材育成プログラム」と「日本語能力判定ツール」の早期開発・展開・普及を求めました。

その他連携型中高一貫校設置予定の美和高校について、教職員の追加配置を強く求め、教育長からはしっかりと取り組んでいくとの前向きな答弁を得た。

では、すでに設置が進んでいる介護者専用駐車場をもっと拡充できないか、警察署に対する路上駐車許可申請を簡素合理化できないか、許可期間を延長できないかを質問しました。その他、#7119救急安心センター事業の進捗状況と費用対効果についてと県西部の鉄道網の充実について質問した。